



ぴよんちゃん通信



福崎町社会福祉協議会
令和3年3月号

新型コロナウイルス収束の見通しが不透明なまま、令和2年度を終えようとしています。今年度は、6月から新年度のようでした。子育て支援の場も内容も制約を受けながら、何とか続けて来れました。

(広報より再掲) 天文学者の池内了さんは、自書『考えてみれば不思議なこと』で、人にとっての「ヒマ」の大切さを述べておられます。「『ヒマ』とは、ぼんやりする時間、あれこれ想像する時間……そのような時間こそ、人間が人間らしく生きる最も大切な時間なのです。」と。子どもたちも、やるべきことを与えられることで発達していくというわけではなく、「園に行くための集団のルールを守れるようにしておかないと」「身辺自立できるようにしておかないと」といった、「逆算」でその時々課題を考えがちですが、「いつかの自立」のために出来ることを増やすのではなく、人への信頼・安心感を基礎にして、ゆったりとした時間のなかで生活し、たっぷり遊び、自分から『やりたい!』を見つけ、豊かに成長していきます。ブランコに座っているだけでも、誰かと時間を共にしたという経験の中で、人というものの居心地のよさや信頼感などいろいろなことを子どもは感じています。

子どもたちと一緒にいて、いいなあと思うのは、オモチャや場所の取り合いをして力任せに取り上げ・取られ大泣きしても、そのあと、無邪気にじゃれ合える、いつの間にか仲良くなれてしまうところです。人にとって最も幸福感を感じられるのは、人との関係の中だと言われています。だからこそ、小さいころにその社会性を身に着ける育ちを体験できることは、必要なのだと思います。数えきれないほど、「けんかの後で仲直り」を繰り返してきた子どもたち。お母さんがフツとつぶやかれた言葉が印象的です。『子どもも強くなったけど、うちも強くなったと思う。』入園まであと少しになりましたが、どうぞ来てください。お待ちしております。4月からまた、お友だちをお誘いくださいね。

お伝えたく、再
掲載しました。

トランポリンと森のひろば (第2体育館とスポーツ公園) 10:00~ 予約なし
日時; 3月5日、12日、19日、26日(金) * 準備; お茶、タオル、着替えなど

【発達を知ろう】 子どもが小さいときは、大人に守られて生きる力を育みます。少し大きくなると、自分で考え、意志を表現する準備を始めながら、生きる力の土台となる自我を育てます。人間が発達する過程で、自分の気持ちを出して誰かに伝えようとする、自我の発達は大切だと言われています。最初は自分の気持ちが最優先ですが、しだいに相手の気持ちにも気づき、我がままではなく、自分の気持ちをふまえて、相手のことも考えられる気持ちが育っていきます。「イヤダ!」「ホシイ!」も、まぎれもなく子どもの意思表示です。自分の気持ちを表現する言葉を獲得すると、使いたくなります。言葉での表現が難しい場合は、思うようにいかなくて近くにいるお友だちを噛んでしまう、側に来られることがイヤで叩いてしまうなど、行動で表現することもあります。自分の気持ちを表現することが出来るようになった時期の子どもには、たとえお友だちを叩いたとしても、「何かイヤなことがあったんだね」とまず、子どもの気持ちに共感することから向き合いたいです。友だちの玩具を取ってしまったとしても、最初の声かけは、「このおもちゃがほしかったんだね」です。何歳であっても、ことばや態度で自分の気持ちを出すことが出来たら、注意や禁止ではなく、共感のことばがけから始まります。気持ちが表現できる力は、自分で考え、判断していくときに必要です。人間の土台になる自我を築くには、まず自分の気持ち大切にされ、大人から「わかったよ」と理解された経験が大事です。この経験がなくては、他人のことまで考えが及びません。どの子ども、「〇〇だ」と、自分の気持ちを出して、「わかったよ」と受け止めてもらう経験が必要です。一緒に子育てしていきましょう。